

■第25回歴史地震研究会のお知らせ(第2報)

2008年8月7日再改訂

2008年6月12日改訂

大正関東地震から85年目となる今年は、つくば市において秋の研究会を開催いたします。9月13日(土)～14日(日)に産業技術総合研究所共用講堂で研究発表会を、15日(月)に国土地理院の地図と測量の科学館の見学等を予定しております。

○9月13日(土)研究発表会1日目・懇親会

10:30～12:00

都司嘉宣

安政東海・南海地震(1854)に伴う日月異常、及び火柱現象について

西山昭仁

幕末期の京都における災害対応－伊賀上野地震(1854年)と元治大火(1864年)を中心に－

白石睦弥

寛保津波の被害と北方諸藩の対応

林能成・木村玲欧・大原祐一・荒川智也

三重県南部における1944年東南海地震被災体験談の収集

木村玲欧・林能成

個人の被災体験を教訓化し防災教育教材にする試み～1944年東南海地震・1945年三河地震を事例として

今村隆正・角谷ひとみ・大石雅之・高田郁

地震に備えて私たちができること

13:00～14:30 ポスターセッション

桜井貴子

皇極紀の青い霧と鶴見火山の活動

今村隆正・大石雅之・角谷ひとみ

日本の大規模崩壊は地震でどのくらい発生しているのか

上月康則・田邊 晋・井若 和久・栗原 美波・山中 亮一・村上 仁士

徳島県の地震・津波碑とその管理について

小野友也・都司嘉宣

元禄関東地震(1703)の津波記録、地震記録、および震度分布にもとづく断層モデルの考察

遠藤恵・小山真人

自然現象記録媒体としての沼津の中近世史料『大平年代記』の特性分析

高野和友・木股文昭

測地データによる1945年三河地震断層モデルの再検討

木股文昭・田中和重好・高橋誠

三重県錦におけるオンサイト型津波避難システムとその歴史・科学的背景

榎本祐嗣

地震津波発光を伴った津波巨大化のメカニズムについての一考察

松浦律子・中村操・唐鎌郁夫

江戸時代の歴史地震の震源域・規模の系統的検討作業-安政五・六年の石見の地震等10地震について

14:45～17:00

羽鳥徳太郎

三陸沖津波による遡上高の地域偏差

羽鳥徳太郎

十勝沖～千島列島間の津波による三陸沿岸の波高偏差

行谷佑一・佐竹健治・宍倉正展・藤良太郎・竹内仁

フィリピン海プレートの形状を考慮した元禄関東地震の断層モデルと外房の津波

津村建四郎

明治時代の灯台の地震観測資料について

渡邊健

宮崎県の古公文書に遺された明治初期の地震観測状況
中西一郎
『兵庫県神社誌』中の地震記録
石辺岳男・中谷正生・鶴岡弘・島崎邦彦
震源域の地震活動から見た地震の繰り返し挙動
堀高峰・宮崎真一・光井能麻
再来間隔の大きな変化を生じる地震発生サイクルのモデル
中西一郎
見直しを要する諸地震

18:00～ 懇親会

○9月14日(日)研究発表会2日目・総会

10:00～12:00

河内一男
1670年西蒲原地震は1828年三条地震の一つ前の地震か
菅原正晴・植竹富一
1751年越後・越中の地震の震度分布図に基づく断層モデルの評価
植竹富一、野口厚子、中村操
天明相模の地震および嘉永小田原地震の被害と震源位置
都司嘉宣
文化9年(1812)11月4日神奈川地震について
赤羽貞幸・原田慎太郎・桑原夏美・菅野真司
石灯籠の破損から見た善光寺地震(1847)の震動
中村操
1854年安政東海地震の被害と表層地質
植村善博
1925年サンタバーバラ地震の被害と復興過程
武村雅之・神田克久・阿比留哲生・原弘明
20世紀初頭に九州・南西諸島で発生したやや深発地震の震度分布と地震規模ー1909年宮崎県西部地震と1911年喜界島近海地震

13:15～16:15

武村雅之
日記にみる関東大震災
諸井孝文・武村雅之
1923年関東地震における死者発生のプロセス(その3)
北原糸子
「関東大震災・地図と写真のデータベース」作成にあたって
王京
日本における災害航空写真の登場について
西田幸夫
関東大震災における火災延焼と避難について
井上公夫
関東地震(1923)時の震災地応急測図原図と土砂災害
ー休憩ー
宍倉正展・越後智雄・行谷佑一
能登半島北西部の隆起生物遺骸群集に記録された最近1000年間の地震履歴
村岸純
房総半島における元禄関東地震時の地殻変動とその後の沈降運動
島崎邦彦・金幸隆・石辺岳男・他
三浦半島小網代湾干潟の津波堆積物
藤原治・平川一臣・阿部恒平・入月俊明
伊豆半島南端の入間に伝承された“津波堆積物”の掘削調査
小松原純子・藤原治・高田圭太・澤井祐紀・タン ティン アオン・鎌滝孝信
東海道白須賀宿付近の堆積物に記録された歴史時代の津波と高潮

16:30～ 総会

○9月15日(月) 見学会

国土地理院 地図と測量の科学館で行われている企画展を見学します。地図と測量の科学館は入場無料です。企画展会場には、タクシーやバスで直接向かってください。集合時間は9時50分とします。つくばセンターから地図と測量の科学館までの乗車時間は約10分で、タクシー料金は1500円ほどです。

<注意事項>

1. 講演発表者は、予稿原稿をA4用紙1枚にまとめ、7月末日までにEメールまたは郵便にてお送りください。Word等のファイルを添付してお送りください。

予稿原稿の送付先: 松浦 律子(Ritsuko S. Matsu'ura)

〒101-0064 千代田区猿樂町1-5-18千代田ビル5F

(財)地震予知総合研究振興会 地震調査研究センター

Eメール:histeq@erc.adeq.or.jp Fax: 03-3295-1508 (前号で違って居りました)

2. 大会参加費

大会参加費として1000円集めさせていただきますので、ご用意願います。

3. 昼食(弁当)・懇親会の申し込み

電子メール、ファックス、郵便のいずれかにてお申し込み下さい(7月末日必着)。

申込先: 金田平太郎(Heitaro Kaneda)

〒305-8567

つくば市東1-1-1中央第7

(独)産業技術総合研究所 活断層研究センター

FAX:029-861-3803 Eメール:rekishi08@m.aist.go.jp

会場の近くに食堂がありませんので、13日と14日の両日も昼食(弁当, 1食1000円)を予約されることをお勧めします。15日に見学する企画展会場(国土地理院)付近には、徒歩数分の範囲に食堂がありますが休日は混んでいることが多いです。会場周辺での昼食を予定される方は予め各自にてご用意されることをお勧めします。

懇親会の参加費は~~4000円~~5000円です。

4. 宿泊

宿泊の予約は各自でお願いいたします。研究会会場と市街地(つくばエクスプレスつくば駅周辺)は4kmほどです。送迎サービスのあるホテルもありますので、予約時にご確認ください。

5. 大会全般に関する問い合わせ

堀川晴央(Haruo Horikawa)

〒305-8567

つくば市東1-1-1中央第7

(独)産業技術総合研究所 活断層研究センター

FAX:029-861-3803 Eメール:rekishi08@m.aist.go.jp

○改版履歴

2008年8月7日 プログラムを修正(口頭発表の追加、ポスター発表への変更)、懇親会の費用変更

2008年6月12日 プログラムを修正(ポスター発表3件追加)

2008年6月11日 初版発行

以上